

太宰府の文化財

(475)

武藤少貳氏と御所ノ内

九州を統括した行政府としての太宰府政庁跡は、発掘調査によると11世紀中ごろ以降には荒廃して終焉を迎え、その後、遺跡の集中する箇所は観世音寺周辺から現在の西鉄五条駅へ太宰府天満宮周辺に移ります。なかでも、太宰府市役所のある観世音寺東側の字「御所ノ内」へ「露切」にかけての1帯は、瓦や石で舗装した道路やそれに並行する築地塀、整地を伴った礎石建物、石

敷きの基礎を持つ倉の跡が存在し、周辺の地域とは明確に異なる優位性を持ったエリアでした(図1)。特に「御所ノ内」地区は、銭を100枚単位で複数束ねた「さし銭」を埋めた埋納銭、中国産の磁州窯系鉄絵壺やベトナム産の青華大皿などの当時の国内ではぜいたくな品が多数出土しています。

主は、鎌倉時代に幕府が筑前に守護職として派遣した武藤少貳氏や、南北朝時代に肥後の菊池一族とともに太宰府で「征西府」と呼ばれる政務機関を樹立した懐良(かねなが)かねよし)親王ではないかと言われています。発掘調査で発見された立派な建物群やぜいたくな調度品は鎌倉時代へ室町時代前半期の武藤少貳氏の全盛期のもので、御所ノ内の周辺の地名には「朝日」や「山ノ井」「横岳」といった武藤少貳氏傍系(分家)の家名があることや(図2)、菩提寺である横嶽山崇福寺の寺域が御所ノ内の北奥にあることから、この場所に武藤少貳氏の本宗家の

館と守護所があったのではないかと考えられます。

近年では、御所ノ内にあたる太宰府条坊跡第52次調査の出土品の整理作業で、興味深い遺物が見つかりました。幅5cmほどの滑石に「目結紋」と呼ばれる文様が刻まれている(図3)。鎌倉時代の『蒙古襲来絵詞』には武藤少貳氏の旗印に目結紋が描かれており、出土遺物から御所ノ内と武藤少貳氏の関係が読み取れます。

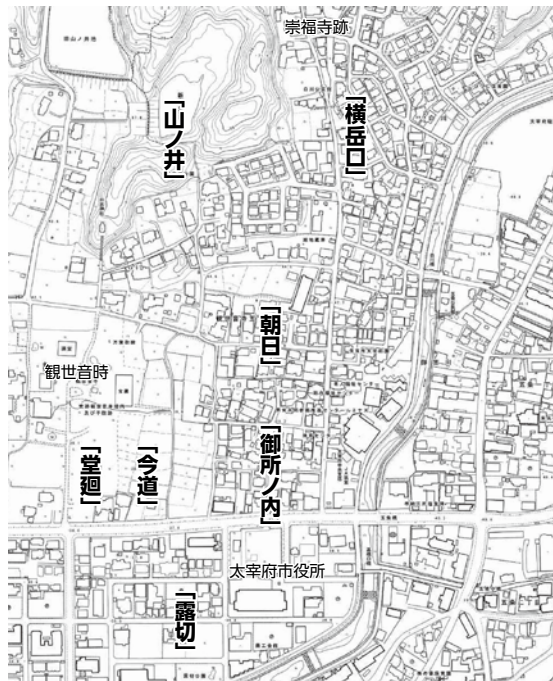
この地域での発掘調査は非常に部分的なもので、征西府のあった14世紀後半ごろなどを含む遺跡の全容はわかっていませんが、古代の行政府としての太宰府がなくなった後、中世太宰府の中核となる施設があったといえる場所です。

文化財課

山村 信榮



▲図1 瓦敷きの道と築地跡



▲図2 「御所ノ内」周辺図



▲図3 「目結紋」のある滑石

編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198

☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号

✉ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします！

